注目！訪問自費サービス　007

かつべ施術院

勝部忠浩

代表

042-866-7255

chl-katsube.com

東京都町田市旭町1-9-2
藤田コーポ101

ビジョン

「ひとつ年を重ねるごとに幸福になっていく地域社会をつくる」を理念に掲げています。
施術を通して、心身ともに健康になって、笑顔で帰ってもらっています。

37年間のサラリーマン生活から一転、町田で「かつべ施術院」を開業した施術家・勝部さん。自身の腰痛完治の体験を原点に、腰痛・肩こり・坐骨神経痛など幅広い不調に対応する独自の訪問施術を展開。強く揉まない気のエネルギー施術で体の歪みを整え、地域の高齢者や外出困難な方にも寄り添い、「やりたいことを諦めない人生」をサポートしています。（2025年8月取材）

サラリーマンから施術家へ、異色の経歴を歩んで

まずは勝部さんのこれまでの歩みについてお聞かせください。大学時代はどのようなことを学ばれていたのでしょうか。

大学では経営工学を専攻していました。当時はコンピューターが社会に普及し始めた頃で、SE（システムエンジニア）という職業に漠然とした憧れがあったんです。それで、コンピューター関連の勉強ができる学科を探して経営工学を選びました。生産管理や品質管理といった分野を学びましたが、正直なところ、プログラミングが難しく、自分には合わないなと感じていましたね。

そこから、キヤノン電子株式会社に37年間お勤めになったと伺いました。どのような経緯で入社されたのですか。

就職活動の際、大学の就職課で過去の資料を見ていたところ、3年連続で同じ学科の先輩がキヤノン電子に入社していることを知りました。それに、「キヤノン」というブランドイメージにも惹かれるものがあり、ご縁があって入社することになりました。本社は埼玉県秩父市にあり、島根の田舎者だった私にとっては、東京を通り越して、また山の中に入っていくという不思議な感覚でしたね。
会社では、主に部品の調達業務を担当していました。キャリアの途中では、キヤノンの本社に1年半から2年ほど出向した経験もあります。そこではコストエンジニアとして、新製品開発における目標原価の管理といった、大学で学んだ知識が活かせる仕事にも携わりました。出向から戻り6年間自社製品のコストエンジニアの仕事に携わった後再び調達部門でキャリアを重ねていきました。

37年という長い会社員生活に、転機が訪れたきっかけは何だったのでしょうか。

大きなきっかけは二つあります。一つは、2010年頃に職場環境が大きく変わったことです。新しい上司の元で働くことになり、精神的なストレスを感じる日々が続きました。
そしてもう一つが、2011年3月の東日本大震災です。当時、部品の管理を担当していたのですが、取引先のひとつが岩手県にありました。その会社に数十億円分の部品を預けていたところ、津波の被害に遭

い、すべて流されてしまったのです。当初、社長からは「天災だから仕方がない」と言われていたのですが、後になって「なぜそんなに多くの部品を預けていたのか」と責任を問われることになりました。その頃から心身のバランスが崩れ始めてしまったのかもしれません。ある日突然、激しい腰痛に襲われ、自力で立つことさえできなくなってしまったんです。

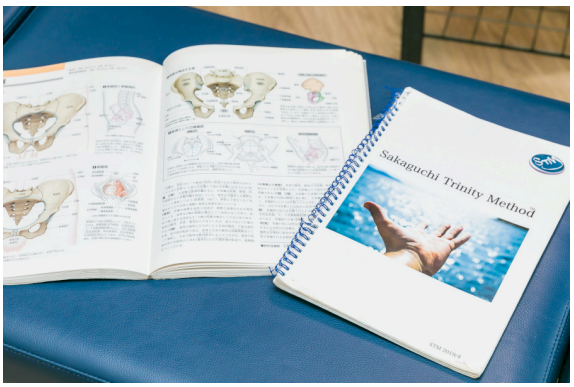
自らの腰痛完治が原点、「かつべ施術院」の誕生

突然立てなくなるほどの腰痛とは、大変なご経験でしたね。それが施術家を目指すきっかけになったのでしょうか。

はい、まさにその通りです。本屋に立ち寄った際、『腰痛の9割は自分で治せる』という一冊の本が目に留まりました。その本の著者のホームページで紹介されていたのが、現在の私の師匠である坂口先生だったんです。坂口先生の治療室は目黒区にあり、その当時私は高輪にある寮に住んでおりましたので早速訪ねてみることにしました。

先生の施術を受けると、あれほどひどかった腰痛が嘘のように完治したのです。この経験は衝撃的でした。

その出会いが、起業への道を開いたのですね。



施術後もメンテナンスのために定期的に通っていたのですが、ある時、先生から「興味があるなら教えるよ」と声をかけていただきました。当時は弟子が30人ほどいて、月に一度、皆で集まって勉強会を開いていたんです。私もその一人に加えてもらい、施術の道を学び始めました。最初は、同僚などに知られるのが気恥ずかしくて、こっそりと学んでいましたね。

同じ時期に、故郷の島根で暮らす母の介護も経験しました。母はパーキンソン病を患っており、転倒して大腿骨を骨折してしまいました。さらに、介助してくれていたヘルパーさんの不注意で鎖骨も骨折し、それがきっかけで寝たきりになってしまったのです。母を施設から自宅へ連れて帰る際には介護タクシーを利用していたので、自分も介護タクシーの仕事をしようかと考えたこともありました。しかし、坂口先生に相談したところ、「介護の仕事は年齢的な制約もある。施術家なら、もっと長く、広く人の役に立てるのではないか」とアドバイスをいただき、この道で生きていくことを決意しました。

「50代のうちに新しい一歩を踏み出したい」という意地もありまして、定年を目前に控えた最後の2年間は、毎週土日に秩父の自宅から目黒の坂口先生の元へ通い詰め、本格的に技術を習得しました。2020年12月が定年でしたが、自己都合という形で9か月早く3月末に37年間勤めた会社を退職したんです。

会社を退職され、いよいよ施術家としての道が始まるわけですが、最初から町田での開業を考えていらっしゃったのですか。

いいえ、実は全く違う計画を立てていました。退職後半年から2020年末まで坂口先生のところで見習いとして勉強させて頂きスキルを確かなものとしたうえで2021年に氣功の先生と一緒にネパールへ渡り、現地で開業する予定だったのです。しかし、そのタイミングで新型コロナウイルス…

続きはQRコードからアクセスしご覧ください　→ → →

おうちde医療

在宅医療com株式会社
〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F
service@zaita9iryou.com